

大崎システムを起点にした世界標準の循環型地域経営モデル

1. 徹底した分別により「**リサイクル率日本一の町**」を実現。リサイクルによる収益金を活かした奨学金等を整備。
2. 2024年までに使い捨て容器に代わる手段を提供。2030年までに**使い捨て容器の完全撤廃・脱プラスチック**を実現。

